

DX取り組みに関して

日本ハムシステムソリューションズ株式会社



たんぱく質を、もっと自由に。

Nipponham Group Vision 2030

私たちはベストパートナーであると共に、
グループ変革の「**原動力**」へと進化しなければなりません。

私たちはITのプロフェッショナルとして、クラウド、AI、データ活用といった技術を駆使し、グループ全体のDX（デジタルトランスフォーメーション）を強力に推進してまいります。

従業員一人ひとりが高い視座を持ち、ニッポンハムグループ、ひいては**日本の食の未来**のために変革をリードする。それが日本ハムシステムソリューションズのDXです。



代表取締役社長

藤原 寛英

FUJIWARA HIROHIDE

日本ハムシステムソリューションズ株式会社

VISION

「食の未来をデジタルで拓く、最強の共創パートナーへ」

～ デジタルの力でニッポンハムグループの変革をリードし、持続可能な社会の実現に貢献する ～

DX

AI×DATA活用

技術で経営をリード

PILLAR ①

人

挑戦する文化と人財

成長を支える組織

PILLAR ②

組織

推進体制と基盤

攻めの経営を支える

PILLAR ③

これまで

経営判断とグループ事業基盤を支えるIT機能

経営の中枢を支える、IT機能の集約と統合運用を担ってきました。

これから

戦略的ビジネスパートナーへの転換

従来のシステム企画～運用の枠を超え、**経営とDXを一体**として捉え、ニッポンハムグループ全体の経営戦略と事業変革を加速させます。

「事業基盤改革」への貢献

事業プロセス全体から創出する収益を最大化するために、
DXによる事業基盤強化が重要なプロセスと定義。
(ニッポンハムグループ統合報告書 2025)

目指す姿

ビジネス共創パートナー

デジタル技術を駆使しながら、社会課題の解決と新しい「食」の
価値創造を共に実現する存在へ。

DX戦略：NHSS-2030 ロードマップ

2030年に向けて段階的に進化し、ニッポンハムグループおよび社会への提供価値を高めていきます。



具体的な取り組み方針 — 3つの柱

DXビジョン実現のため、3つの柱で変革を推進します。

①

DX構想

AI×DATA活用の推進

- データ可視化で経営判断を迅速化
- AI活用でビジネス課題解決と収益改善

②

CULTURE & PEOPLE

「挑戦」する企業文化と
人財の育成

- チャレンジャー宣言による挑戦風土
- DX人財の育成
- 資格取得支援と自律的キャリア形成

③

GOVERNANCE &
INFRASTRUCTURE

経営と連動したDX推進
体制とIT基盤

- 社内横断DX推進体制
- クラウドネイティブな俊敏な基盤
- セキュリティ・ガバナンスの徹底

方針

DXの徹底活用を推進し、ニッポンハムグループを競争優位性の高い企業に導く

短期

データ可視化による経営判断の迅速化支援

バックオフィスを中心とした業務効率化に加え、製造・販売・物流データの視覚化をBIツールで当社主導により実現。ニッポンハムグループ全体の意思決定スピード向上に貢献します。

中長期

AI活用によるビジネス課題解決と収益改善

アナログ業務の高度化・代替にとどまらず、各事業本部のビジネス課題に対するAIソリューションを当社から積極的に提案・実装。データ分析で収益改善ポイントを明確化します。

方針

社長直轄の「チャレンジャー宣言」のもと、失敗を恐れず挑戦する風土を醸成する

ビジネス変革における役割分担イメージ

ビジネスアーキテクト

課題を見つける人

経営課題を理解し、データやAIで何を解くべきかを定義する。

身近な例え

建築士

どんな建物を、なぜ建てるかを設計する

データサイエンティスト

答えを導く人

データを分析・モデル化し、課題に対する答えをデータで示す。

身近な例え

構造設計士

建物を成り立たせる仕組み・計算を行う

システムエンジニア

形にする人

システムとして実装し、現場で動き続ける形にする。

身近な例え

施工管理者

設計を実際の建物として安全に建てる

「学ぶ」→「自分でできる」→「経営を変える」の3段階

L1

基礎習得

学んだ状態

達成基準

指定のEラーニングカリキュラムを完遂

L2

実践独り立ち

自分でできる状態

達成基準

いずれかの役割で、業務改善プロジェクトを独り立ちで対応

意味

自身がPJ推進を行いつつ、部の育成までを担う

L3

経営変革

経営課題を変えられる状態

達成基準

経営課題を理解し、DXで経営課題そのものを改革できる

意味

単に「モノを作る」ではなく、経営アジェンダに直結する変革を主導

経営インパクト

DXが「コスト」ではなく「経営戦略の柱」になる

方針

攻めのDXを強力に推し進めるため、経営層主導の推進体制と強固なデジタル基盤を構築する

01

社内横断のDX推進体制

代表取締役社長をトップとするDX推進体制を構築。社内を網羅した形で取組みを進め、IT投資の意思決定と迅速な施策実行を推進。

02

セキュアで俊敏な基盤

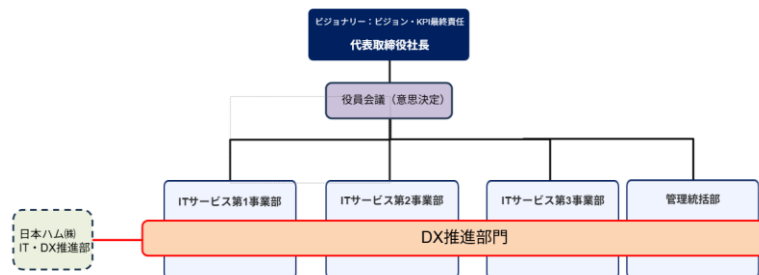
データのクラウドへの集約化により、環境変化に即応できるスピードとアジリティ（俊敏性）を確保。

03

セキュリティ・ガバナンスの徹底

データセキュリティ・プライバシー保護を両立した「安全・安心かつ高速なデジタル基盤」を提供。

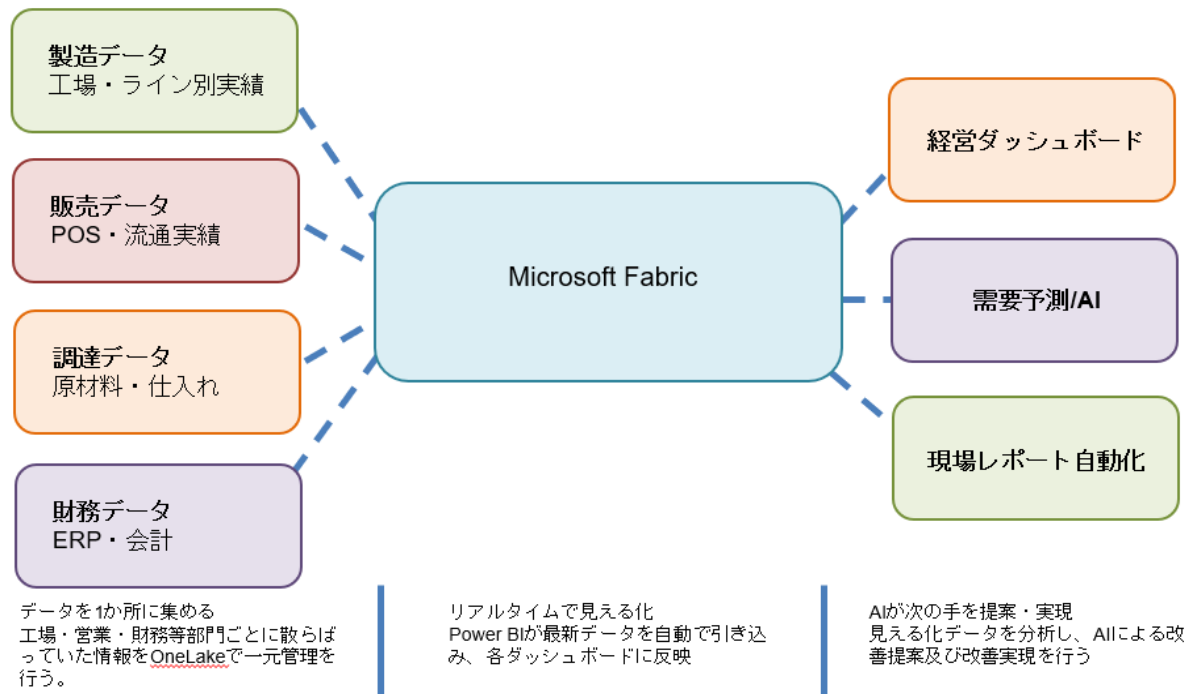
DX推進体制図



IT環境整備

次世代データ基盤（Microsoft Fabric）の構築・提供

「Microsoft Fabric」を採用した統合データ基盤を当社が構築・提供。ニッポンハムグループ全体のデータを共通資産として蓄積・標準化し、データドリブン経営を強力に後押しします。



成果指標（KPI）

NHSS- 2030で描いた将来像を成果に落とし込むため、活動量とアウトカム双方を測るKPIを設定します。

OUTCOME	AI × DATA	PROJECT	PLATFORM	PEOPLE
NHSS-Value 4.0 到達度	データ活用の推進	DXプロジェクト・業務改善	データ基盤	DX人財の育成
<u>01</u> DX施策による事業貢献効果	<u>01</u> BIマンスリーアクティブユーザー数	<u>01</u> BI業務改善創出数	<u>01</u> データ基盤へのデータ連携システム数	<u>01</u> DX人財数
<u>02</u> 事業部門の改革に直結したDX案件数	<u>02</u> BIデイリーアクティブユーザー数	<u>02</u> AIソリューションの業務活用数	<u>02</u> データ基盤利用組織数	<u>02</u> DX関連資格取得数